

## シリーズ 女性建設技能者インタビュー 10トンダンプ運転手 谷津 悅子さん

## 介護も子育ても仕事をやりくりして乗り切る

建設業ではたらく女性職人へのインタビュー。第5回は10トンダンプ運転手として働く谷津悦子さん（50歳代）。経験年数30年、女手一つで2人の子と母親を養ってきた。今は再婚した夫と娘夫婦と孫2人と90歳の母の7人家族。母を介護しながら、10トンダンプの運転手を続けている。

## 「大きい車に乗りたかった」「女性の仕事としては高賃金」

——ダンプの運転手ということですが、どのような仕事でしょうか。

谷津：プラント——採石場で碎石を積んで、工事現場や生コン屋さんの原材料置場などに運ぶ仕事です。ここ栃木県は石がとれる地域でこの碎石業者が多く、ダンプ運転手も多いです。

——ダンプ運転手になったきっかけは？

谷津：単純に、大きい車に乗りたかった。それともう一つには女性の仕事としてはハードだけお金になるからです。「女性の仕事としては」ですけど。小さい子どもが二人いたから稼がなきやならなかつたですし、離婚した夫が残した借金もありました。それからなにより母親を楽にしてやらなきや、という思いがありました。

——プラントで働いていたこともありますか、今はダンプの運転手をしています。

——待遇や賃金形態など教えて下さい。

谷津：雇用保険には入っているけど、社会保険は個人加入です。休みは日曜日と祝日。たまに、出てって言われることもありますけどね。

私がもらう賃金は歩合で、運ぶ距離と持っていくトン数によって決まります。例えば、これから千葉や埼玉まで運ぶのに、トン1000円とて、10トン持つていけば1万円です。だから20トン持つていいとなれば誰だって20トン持つていいみたいです。それは過積載で非常にまずいです。でも、運賃が上がつてくれれば過積

載をする必要はなく、上限10トンまでとなるんです。月30万円はもらえないけどね。うちの会社、まだいい方だと思っているのは、無事故手当や通勤手当（自分の乗用車で車庫に行くときのガソリン代）を出してくれます。それは親方の器量によります。無い所は何もないから、そういう中でよくやつてくれていると思います。

われわれの業界に関わる構造は、生コン屋さんにプラントが碎石を売る、そのプラントが碎石を運ぶのにダンプに仕事を回すというものです。うちらが生コン屋と直接話ができるのであれば運賃の交渉でもなんでもします。でも、われわれダンプは山（プラント）を介してだから交渉できない。この間も運賃が下がつたんですよ。山に聞いたら生コン屋が下げたからしょうがないって。なんでこの時期に下がつたのか。30年くらい見てきているけど、うちの業界はそんなことの繰り返し。

変わったのは積み荷のトン数くらいです。30年前は10トンダンプに30トン、40トン積んでいました。でも、過積載の取り締まりを強化した時があって、その時は一時積み荷が減り、確かに単価が上がつたのですが、一方で車検は上がるし燃料も上がつた。その後は、単価も下がも繰り返されています。

それから、変わったと言えば、年寄りが増えました。でも、70歳近い人が何でそこまで仕事をしないといけないのか。仕事しなきゃいけない経済状況で、それがおかしいと思うのです。

仕事が無ければ売り上げがないから私たちの分

が少なくなります。月固定給の運転手はほとんどいませんよ。

——プラントでも働いていたということですが、プラントに残ろうとは思わなかった？

谷津：人間関係が嫌になっちゃつた。現場の女性は私だけだったけど、周りの男の人の圧に嫌になっちゃつた。

——どんな感じですか？

谷津：男性と同じことをやっても、なんていうんだろ、例えば、お前がやると機械が壊れるとか。それから、丁寧にやりたい気持ちがあつたから多少時間はかかったかもしぬないけれど、「遅せー」とか。そっちの方でスコップ持ってろつていう時もありました。「私、ユンボの運転じゃないの？！」みたいな。怒鳴られるとかはなかつたけど、私、そこそこ器用にやれると思っていたけれど、どれだけやってもそういう感じ。そこは2年位で辞めました。

別のプラントからも声をかけられて働いた事がありました。子育てしていたから出退勤の時間が決まっているというのが良かっただし、朝突然、「出勤が遅れます」という場合でも融通を利かせてくれましたが、残業が多い割に賃金が安かつたので続けられなかつた。

——どんな免許をお持ちですか？また、免許取得の費用負担はご自身ですか？

谷津：大型免許、トレーラー免許、鉱山免許といつて掘削などの機械を動かす重機の免許、車両系建設機械の免許などです。大型の免許は取りたくて取りに行ったから自分で、トレーラーも自分で。その他の車両系とかはプラントで働いていた時に取つたので会社負担でした。

## 睡眠時間は最大5時間

——一日のスケジュールを聞かせて下さい。

1日のスケジュール		
0 : 00	0 : 30 起床	
1 : 00	出発	
2 : 00	↓ 運転	
3 : 00	↓ 1回目の積み荷を降ろす	
4 : 00	↓ 別の場所で荷を積む	
5 : 00	↓ 運転	
6 : 00	↓ 2回目の積み荷を降ろす	
7 : 00	↓ ↓ 運転	
8 : 00	↓ ↓ 帰つて来られるときは帰宅し、母の介護等	
9 : 00	↓ ↓ [仕事が無い場合] [仕事がある場合] [冬場等繁忙期]	
10 : 00	↓ ↓ プラントで積み込み	
11 : 00	↓ ↓ 運転	
12 : 00	↓ ↓ 帰つて来られるときは帰宅し、母の介護等	
13 : 00	[仕事が無い場合] プラントで積み込み	
14 : 00	翌日の積み込み 運転	
15 : 00	帰宅	
16 : 00	食事づくり等家事 プラントで翌日の積み込み	
17 : 00	帰宅 プラントで翌日の積み込み	
18 : 00	食事づくり等家事 帰宅	
19 : 00	就寝 食事づくり等家事	
20 : 00	就寝 就寝	

谷津：前の日に明日はこのように走ってほしいと連絡が来ます。起きるのは毎日深夜0時30分、1時頃出発して埼玉や千葉などに行き、積み荷を1回降ろして、例えば、千葉で積み荷を降ろしたら、別の千葉の積み場に回つて、次のところで降ろす。荷降ろしにかかる時間は積み荷や降ろす先によって違います。生コン屋なら10～15分くらいですが、現場によっては2～3時間待たされたり、冬場はシートを剥がしたりして時間がかかりります。最後に明日の分の積み込みに行く。ここ栃木県佐野から埼玉県浦和だったら2時間、千葉県君津だったら3時間半で着きます。走行距離は一日600kmとか、少ない時は300～400kmとかですね。波があつて困ります。

——帰宅は何時になるのですか？

谷津：積み込みに行って、モノがなければ待たないといけないので夕方5時位になつてしまいますが、待たなければ3時とか4時ですね。ただ、冬場は仕事が忙しくなるので、3時や4時まで走つて、その後積み込んで、帰宅は6時とか7時です。本当は7時までには寝たいんです。



谷津 悅子（やつ えつこ）さん

それでまた夜中12時に家を出ます。

私の場合、家で寝る時間が5時間あればいいほうかな。仮眠を取れる場合もあるけれども、早く終われば早くあがれるって頭があるから走っちゃいますよね。

それから、食事は不規則です。夕食は席について食事ができますが、朝は4時～6頃の間に、握ってきたおにぎりやコンビニのおにぎりを食べたりします。でも、朝も昼も食べない時もあります。だから野菜ジュースを飲むなどして健康に気遣っています。

#### 介護も子育ても仕事をやりくりして乗り切る

谷津：今は介護の問題が出てきているから、仕事をやりくりしています。例えば、浦和に行つたらいったん戻ってきて、またこっちから積んでいく仕事です。その隙間に、いったん家に寄って、母の食事の支度ができるように配車してもらったりしています。娘と交代で食事の支度等をしているので食事の支度等は毎日ではありません。娘がいるから仕事ができています。

#### ——介護では大変なのはどんなことですか？

谷津：トイレに一人で行けるけど杖突きながらとか、うまく寝返りが打てなかつたり、腰が痛かつたり。枕元に鳴るものを置いて鳴らしてもうようによっているけれども、私のことを心配して「えつこ、寝てないでしょ、寝てないからいいんだよ、寝な」って言ってくれる。けれど

も、そういう訳にいかない。夕飯の支度で朝食の分も作るとか、行く前に寝ているところを起こして「トイレ大丈夫？」とか布団を直したり、そんな感じで今のところやっています。

#### ——子育てしている時は？

谷津：保育園や学童に預けたり、仕事が終わって迎えに行ったりしました。前の日にご飯を作つておいて、朝は母に送り出してもらうこともありました。20年前ですが、シングルマザーでいるときは今よりももっとひどかったんです。夕方6時7時に家を出て、夜中走つて朝帰つて来るというスケジュールでした。

#### ——仕事の継続が厳しくなったことは？

谷津：子どもが熱を出すとか厳しかった部分もあります。夜中に車に乗せていました。後ろで寝ていたり遊んだりして、そのまま保育所に乗つけていて、そんなやり繕りをしていました。それから、娘の卒業式には、着替えの礼服を持って仕事に行って、ダンプで学校に行き、着替えて参列しました。時間がないからそうするしかなかった。

#### 女性ダンプ労働者を取りまく問題と課題

##### ——女性として嫌な思いをしたことは？

谷津：若い時、現場に行ってからかわれるということがありました。例えば、現場で荷物を早く降ろしたいわけですが、「胸見せたらはやく降ろしてやる」とか言われたりね。私は流しちゃうけど…。女性のダンプ運転手と話をするとういった嫌な思いをしたことがある人はいっぱいいますよね。それから、ちょっといい仕事をすると同僚から「誰々と寝たんだべ、だからいい仕事ばかり来るんだべ」とか「社長とできるべ」とか噂したり、言う人もいるんですよ。そうすると会社の方で使いづらくなる部分があるんじゃないかな。まだまだ女性が働きやすい職場ではないかもしれない。

でも、やりやすくなつたのはコンビニが増えたトイレに行けること。昔は本当になくて、も

#### 過積載の背後責任追及（建交労組木県本部執行委員長 山内健人氏の話）

平成5年に道路交通法過積載の背後責任を追及できるように法改正されました。受け取った側も積んだプラントも処罰されるというものです。その時、業界全体に緊張感があり、積み荷の量が下がつて、ダンプの単価が上がりました。しかし、ふたを開けてみたら警察の取り締まりは運転手だけだったんですよ。これなら大丈夫だということで、一気に緊張感がなくなつて、また過積載するようになりました。また、いったん上がつた単価が平成6年の後半からガクッと下がりました。参議院議員の山添拓さんが国会で追及したのはその時の法改正の趣旨にもとづいて警察が徹底してやっていれば今頃過積載がなくなつたはずだと質問し、過去10年間に全国で1件しか背後責任の追及をしていなかつたということが明らかになりました。運転手は毎年3000人検挙されていますが、あまりにも不公平ではないか。さすがに、警察庁もこれは確かに不公平でしたと言わざるを得なくなりました。今、これからどうするのかという時期なのです。国会追求で明らかになった部分をどこまで実践させるのかという運動上の一つの大変な課題です。

う駄目だと思って郵便局に駆け込んだこともありますよ。

##### ——膀胱炎になる女性が多いと聞きますね。

谷津：はい、なりました。何回も。でも仕事休めないからホカロン巻いて——温めるといいんですよ——、血尿まで出ました。トイレを我慢するから便秘にもなるし。なるべく水分取らないようにして気を使つていました。今はそれがなくなりました。

##### ——女性ダンプ運転手として働く上での課題は。

谷津：まずは拘束時間。女だからって言われるのが嫌だから私は頑張るけど、理解を示してくれる親方は少ないと思う。女性のダンプ運転手はみんなめいっぱいやっているよね。当然、育児休暇があるところなんてないと思う。

あと、女性だからできない、女性だと危険だという先入観があることをすっごく感じます。私はトレーラーにも乗りますが、プラントに私が行くと「えー！」って言われるんですよ、運転できるの？みたいな。運転できるから来ているんだって言いたくなりますよ。

この業界で女性が増えるということは今の段階で期待できないんじゃないかな。

時間のことを考えれば、2トンなど小型ダンプが現場で行つたり来たりしているけど、それなら時間が決まっている。車の性能があがつていて運転はしやすい。車の運転ができれば今はそんなに力仕事がいらないですから。向こうで積んでくれるし、シートは自動で上がるし。それから国でも市町村でもいいけど、就労のために免許の取得補助などがあれば女性でもやろうと思う人が出て来るかもしれないですね。

##### ——賃金が上がらないと入職しないですね。

谷津：そのためにわれわれ組合も頑張っているんですよ。だけど、なんで上がらないんだろう。キャラバンの時、県の人に聞いたけどわからない。山（プラント）でとまっちゃうんだか、どこでとまっちゃうんだか。ダンプの運転手は一番下、底辺。その底辺がいなきゃ困るのに、このままじゃ減つて行っちゃう。もし仕事がたくさん出て運賃が上がつたとしても、その時に人がそんなに来るというのは考えにくい。

私は好きでやっているから愚痴はあまりないけど、運賃が上がるに越したことはないですよ。

（文責：編集部）